

fumufumu



色とりどりの児童の作品が展示されたアートイベント。会場では子どもたちがオブジェ作りにも励んだ。長岡市の秋山孝ポスター美術館長岡



「ポストター美術館」は、秋山孝ポスター美術館が制作したポスターなど約80点、年3、4回、所蔵品を中心に企画展を開いている。スタツフの森山泰帆さん(32)は「全国でも珍しいポストターに特化した美術館」とPR。現在は冬季閉館中だが、4月20日に再開する。問い合わせは同美術館 027-288-0391

第4火曜に掲載

げんきの木林の

長岡市の宮内商店街の一角にある「秋山孝ポスター美術館長岡」で今月、地元上組小学校の6年生76人のカラフルな版画が展示された。一日限りのアートイベント。児童が地域の人に書いてもらった感謝のメッセージなどを飾り付け、高さ3メートルのツリーのオブジェを完成させると「面白い」と声が上がリ、笑顔が広がった。

活動 創作 表現

表現通し地域と交流

ひょうげんとお

ちいき

こうりゅう

「6年間お世話になった地域の人への感謝と恩返し」と田中杏美さん(12)はうれしそう。上組小は「日本童画の父」として知られる川上四郎ら芸術分野で活躍する卒業生が多い。学校は豊かな感性や想像力を育てるため、創作活動や美術鑑賞など造形教育に力を入れてきた。連絡帳は「あのねノート」と呼ぶスケッチブックだ。子どもたちが

を学ぶ「造形タイム」もあり、ほかの学校に比べ、創作活動に取り組む時間が長い。6年生になると毎年秋に創作に励

学芸員体験をして、作品紹介などに挑戦する。6年間の総仕上げとして、2年前からアートイベントに取り組んでいる。ことは子どもたちの希望で地元にある秋山孝ポスター美術館長



県立近代美術館での学芸員体験を前に、同館学芸員から仕事を教えてもらう児童＝長岡市の上組小学校

作品展示が励みに



岡元 龍馬君(12) 1年生から「あのねノート」にスケッチやイラストを描いてきたので、絵は上手になりました。県立近代美術館で学芸員体験をして作品にはさまざまな見方があることを学びました。中学生になったら、もっと表現力を身に付け、作品作りに生かしていきたいです。

上組小は図工の授業以外にも朝学習の「造形タイム」を使い、普段から作品作りをする時間が多いです。小さい頃から絵を描いたり、物を作ったりするのが好きだったので、その時間がとても楽しい。創作に集中しすぎて、「もうこんな時間！」ということがよくあります。

んでいる地域の人たちなどから作品を借り、校内美術館を開設する。冬は市内にある県立近代美術館で

障が会場に。児童は商店街にいる人たちに来場を呼びかけたり、元気づけ展示作品紹介をしたり、イ